

# 雪の観測：昔と今

皆さんは雪の観測がどのように行われているかご存じでしょうか。今回はそんな雪の観測の昔と今を青森地方気象台の観測を例にご紹介します！

## 昔（青森地方気象台では1997年2月まで実施）

目盛りのついた雪尺（写真1）で積雪を，降雪板とかね尺（写真2）で降雪量をそれぞれ09時，15時，21時に観測していました。また雪や雨，みぞれ，あられ等の判別も人の目で行っており，降ってきた粒子の大きさや地面にあたった時の反応，降らせる雲，透明度から判別していたそうです。（下の表は雪あられ，氷あられ，ひょうの判別方法です。）



写真1 雪尺



写真2 降雪板（かね尺で降雪を計る）

表 雪あられ，氷あられ，ひょうの判別方法

|             | 雪あられ     | 氷あられ            | ひょう             |
|-------------|----------|-----------------|-----------------|
| 大きさ         | 5mm 未満   | 5mm 未満          | 5mm 以上          |
| 地面にあたった時の反応 | 弾んでよく割れる | 簡単につぶれず，音を立てて弾む | 簡単につぶれず，音を立てて弾む |
| 降らせる雲       | 対流雲      | 対流雲             | 対流雲             |
| 透明度         | 不透明      | 半透明             | 半透明             |

今

積雪計感部からレーザーを出し、雪で跳ね返ってくるまでの時間から雪までの距離を測ります(写真3)。このときレーザーの高さは分かっていることから積雪深が求められます。なお自動化に伴い観測間隔が1時間ごとになったことから、降雪の深さは1時間ごとの積雪差により求められています。また雨や雪、みぞれ等の大気現象の判別も機械化が進み、2020年2月から、視程計や温度計・湿度計等により自動で行っております。



写真3 レーザー式積雪計



機械化によって観測できることが増えたよ！

技術の発展ってすごいね！

(この原稿作成 宗形)



国土交通省 気象庁 青森地方气象台  
〒030-0966 青森市花園一丁目17番19号  
電話 017-741-7411



気象庁ホームページ：<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>

青森地方气象台ホームページ：<https://www.data.jma.go.jp/aomori/index.html>